

# ヤングケアラーとつながり支える



問合先 福祉政策課福祉政策・地域福祉担当

近年、病気や障害のある家族の世話、介護を担う子どもたち「ヤングケアラー」が、注目を集めています。

自分はヤングケアラーかもしれないと思ったらどうすればよいのでしょうか？

福祉の専門家で市内在住の高山恵理子さんにお話を伺いました。

## 実際にあったヤングケアラーの事例を教えてください

### 事例1

祖父母、母親、子どもの家庭で、祖父母の介護を担っていた母親が病気で倒れて、介護を担う人がいなくなり、子どもが祖父母のケアを担っているケースです。

母親の病状が悪化し、最初は少なかった祖父母のケアが次第に増え、子どもは自分の置かれた状況が大変なことになっていく感覚を失ってしまい、ずっとケアをしていました。

ヤングケアラーは、「今、何とかやれているんだっただけのままケアを続けてもいいのではないか」と考えがちになります。

援をしますので、まずは相談窓口にお伝えいただければと思います。

もしかしたら、お子さんの場合は、家庭のことを人に伝えたくないという、それは恥ずかしいことであるとか、隠したいことと考えていることもあるかと思えます。

秘密は守りますし、誰が伝えたとするような話はしませんので、ヤングケアラーの方も、周囲の方々も、安心して相談していただければと思います。

## 先生から市民の皆さんに伝えたいことはありますか

ヤングケアラーだけに限らないことですが、病気や障害を持つ当事者の方たちが、同じような境遇の人たちを支援しようと、You Tubeなどのいろいろな媒体で情報発信をしています。

ヤングケアラーの関係では、代表者自身もヤングケアラーであった(一社)ヤングケアラー協会という会もあります。

ぜひそこで、当事者の方たちが感じた苦しい気持ちや、当事者同士のつながりができて楽に

しかし、ヤングケアラーだった方は、自分の将来を考える時間も余裕も無いまま、大人になつてしまうことがあります。

自分自身のことを考える時間を持ってなかったということが、先々大きな問題になってくることを考えると、やはり「今やれていけばいい」ということではありません。

### 事例2

障害のある子どものきょうだいも、ヤングケアラーとなることがあります。

障害のある子どものケアが大変な場合、家事や掃除が、そのきょうだいの役割になっていたりします。あるいは、直接障害のある子どものケアに深く関わることになることもあります。

障害のある子どものきょうだいのケアも十分に考えていくことが大切です。

## 様々な原因で、重い負担を抱える世帯が最近増えていますが

まず、社会的な状況として、核家族化が進行している影響が大きいのではないのでしょうか。ひとり親の家庭も増えていま

なつたという前向きな気持ちなど、どのように考え、感じているかということに、触れてほしいです。

どうしてもネガティブな情報にとらわれがちになりますが、そうではないリアルな生の声を聞くことができるので、ぜひ、ご覧ください。

また、ヤングケアラーも、ヤングケアラーが付きにくいケアラーに対しても、地域の皆さんが周りの方々に関心を持っていただきたいと思えます。

地域の方たちの見守る目は、とても大切です。

ケアはプライベートな問題ですが、地域で温かく見守るといふことを、ぜひ、お願いできればと思います。



たかやま えりこ  
高山恵理子さん  
上智大学総合人間科学部  
社会福祉学教授(市内在住)

## こちらもCHECK!

県では、ヤングケアラーが日常の悩みを相談したり、話を聞いてもらえる場所として、LINE相談窓口を開設しました。ケアのこと、家族のこと、学校や進学のことから日常の悩みまで、LINEで気軽にご相談ください。



県HPはこちら



本文でご紹介した(一社)ヤングケアラー協会ホームページはこちら

す。誰かが病気などになつたとき、家族の構成員が少なく一人あたりの負担が大きくなりま

また、福祉の立場では医療や介護などのケアが必要な状態になつても、住み慣れた地域で生活することを推進しています。

それ自体はとても良いことなのですが、そうすると、現実的な問題として、家族、特に子どもへの負担が大きくなる場合があります。

ケアをする人たちのサポートを考えることが重要です。

相談窓口には、ソーシャルワーカーがいて、生活をしていく上での課題や問題を解決できるように、本人と家族が、何に困っているのか、話を聴き、一緒に考え、家族にあった支援をしています。

他にも、市役所には、こども支援課がありますし、障害者や生活困窮者の生活サポートセンター(障害者福祉課・福祉政策課)、高齢者では地域包括支援

センター(健康長寿課)があります。また、病院にもソーシャルワーカーがいます。

そういった様々な関係機関がつながって連携を取りながら、福祉サービスなどを上手く使つて、家族が希望する生活を送れるように取り組んでいます。

事例1のように、本人は今の生活が普通だと思いい、大変であると感じなくなっている場合があります。

そうすると、周りの方が気が付いて、相談窓口を教えていただくということが、とても大事になります。

プライバシーに立ち入っていないだろうかと、少し戸惑うこともあると思います。

しかし、相談窓口のソーシャルワーカーは、ヤングケアラーがプライバシーで、とてもデリケートな問題であることを、十分承知しています。

そのことをふまえて、ヤングケアラー本人とご家族に、どんなふうに関わつていったらいいのだろうか十分考えながら支

## 障害者・生活困窮者とその家族に関する相談

鶴ヶ島市生活サポートセンター  
鶴ヶ島市社会福祉協議会(☎277・4116)

## 高齢者とその家族に関する相談

地域包括支援センター  
・「かんえつ」(☎285・7877) 脚折145-1関越病院南館1階  
・「いちばんぼし」(☎279・0777)  
藤金871-3つるがしま中央交流センター内  
・「ぺんぎん」(☎271・5123) 上広谷5-1プラザイン上広谷1階  
・「いきいき」(☎227・6171) 三ツ木16-1市役所1階

## 子どもとその家族に関する相談

児童・家庭総合相談窓口…こども支援課(☎271・1111)  
教育相談…教育センター(☎286・8993)  
児童相談所相談専用ダイヤル  
☎0120・189・783(フリーダイヤル)  
24時間受付(年中無休)  
24時間子供SOSダイヤル(文部科学省)  
☎0120・0・78310(フリーダイヤル)  
24時間受付(年中無休)  
子どもの人権110番(法務省)  
☎0120・007・110(フリーダイヤル)

## 主な相談窓口